



SUZUKA
NATIONAL
HOSPITAL

鈴鹿の風

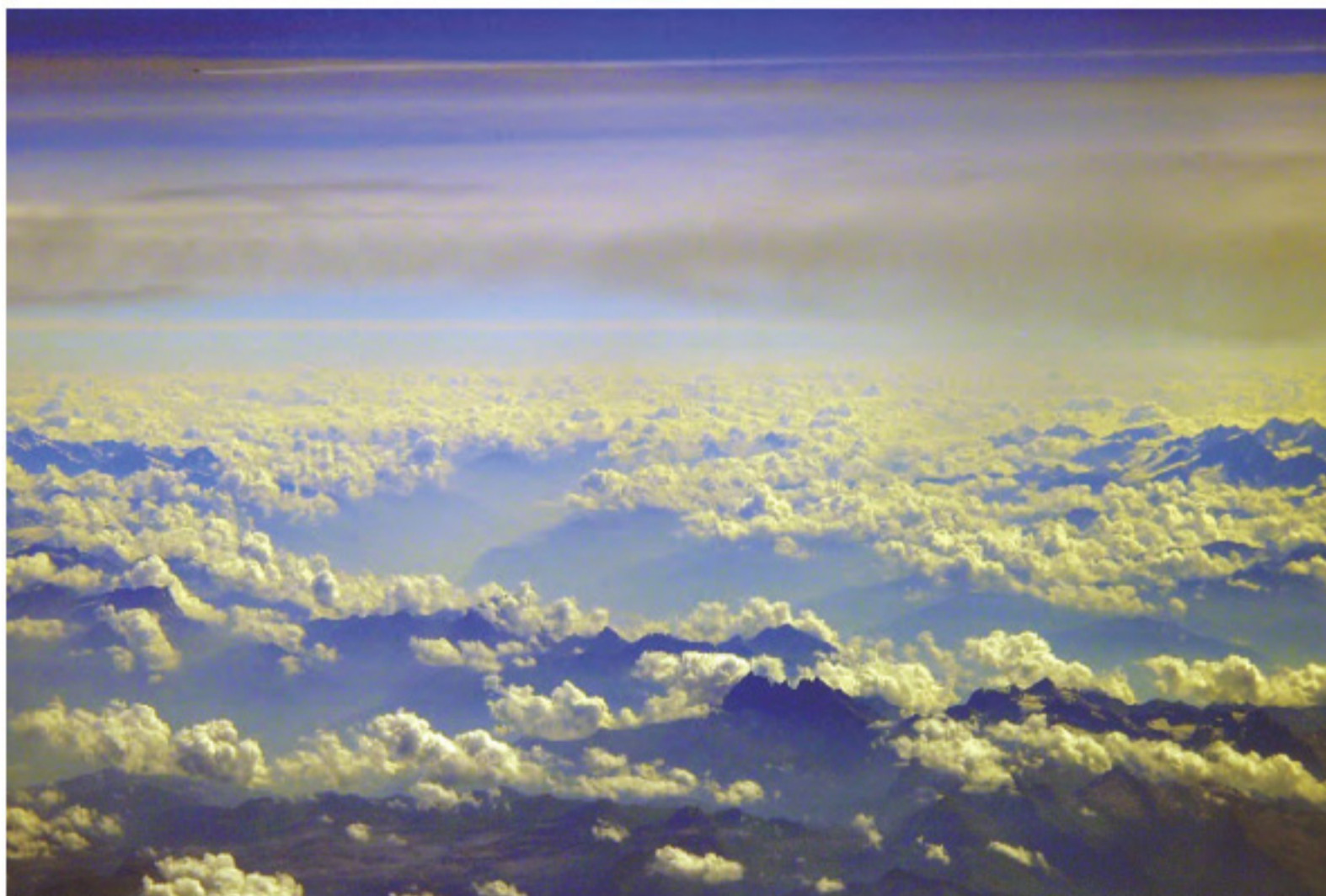
2012.9

第16号

「独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院」ニュース

<病院理念>

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。



アルプス上空の雲

撮影者：院長 小長谷 正明

Contents

- | | | |
|---|---------------------|-------------------------|
| 1 | ■ 巻頭言 | 急がば回れ、薬害スモンの教訓 |
| 2 | ■ トピックス① | 濃厚流動食・栄養補助食品について |
| 3 | ■ トピックス② | 第22回 東海北陸神経筋ネットワーク研究会開催 |
| 4 | ■ 看護だより | 一日看護体験（高校生）を受け入れて |
| | ■ 医局短信 | 第2回 鈴鹿夏季筋セミナー開催 |
| 5 | ■ 療育通信 | 鈴鹿病院の夏祭り!! |
| 6 | ■ 地域医療連携室だより | 患者さんが初めての地域の個展を開催して |
| 7 | ■ 外来診察担当表／交通案内／編集後記 | |

急がば回れ、薬害スモンの教訓

病院長 小長谷 正明

医師として患者さんを診てきていると、何とかこの病気を治せる薬はないものかと、思うことがしばしばあります。先端医学の発達で、遺伝子治療や、iPS細胞などを使った再生医療も、もうすぐ現実になりそうな勢いです。神経難病や筋ジストロフィーなどの患者さんたちからも、期待の言葉がよく聞かれます。歩けなかった実験動物が、ピョンピョンと駆け回るDVDを見ると、もうすぐのようで、早く実現して欲しいと思います。

しかしながら、新しい治療法が、細胞レベルや動物実験の段階でうまくいっているのに、どうして臨床にすぐ使えないのだ、あるいは、自分で試して欲しいなどと、苛立ちの声も耳にしますが、薬や治療の安全性は、きちんと確認しなければいけません。かつての日本の医療はスモンという苦い経験をしています。

高度成長期の日本で多発した病気で、おなかの症状があった後、急に足がしびれ、麻痺して歩けなくなり、目も見えなくなりました。1万人以上が罹り、原因が分からないので、奇病だウィルス感染症だとマスコミがとり上げられ、患者さんたちはさらに社会的偏見も受け、苦痛にしいたげられました。

やっと、昭和45年になって、患者さんの緑色の舌と緑色尿の分析で整腸剤キノホルムが原因と突き止められました。よく使われていた薬で、調査すると、患者さんの服薬歴がはっきりしました。つまり、薬だと信じていたものが、毒だったのです。厚生省は直ちに禁止し、発症者は激減しました。

もちろん患者さんたちの憤りは高まり、製薬会社と国の責任が問われ、訴訟となりました。何年にも亘る訴訟の末、昭和54年に。医薬品の安全性の確立、スモンの原因究明と患者の恒久対策を条件に和解が成立しました。現在、私も厚生労働省の「スモンに関する調査研究班」の主任研究者として恒久対策に関わっています。

発症後40年以上経ても、下肢の麻痺や異常感覚が続いている人が多く、医学的社会的に深刻な例は少なくありません。大台が原の麓の築百年くらいの一軒家で、中年女性患者の訪問検診をしたことがあります。家中にスロープを渡し、家具を配置して、這いずりながらもなんとか生活していました。しかし、小児で発症した彼女を庇ってきた両親と姉が最近相次いで亡くなり、一人だけ残されたといえます。久しぶりの訪問者で冗舌になった彼女を診察しながら、薬害によって作られたこの人の人生は何だったのだろうか、思わざるをえませんでした。

スモンは治療薬のつもりが、とりかえしのつかない薬害をもたらしてしまいました。薬は毒と紙一重とはいえ、人間の体に害をなさない、仮に有害事象があっても治療効果より圧倒的に小さいものでなければいけません。待ち遠しさは慎重さの証拠と思いながら、先端医療の恩恵を首を長くして待っています。

トピックス①

濃厚流動食・栄養補助食品について 栄養管理室長 小林 敏郎



栄養補助食品とは、毎日の食事だけでは十分に取る事のできない栄養素を補うための食品のことです。そして、人間が本来、持ちあわせている治癒力・免疫力を向上させ、病気の予防、病気の回復を手助けすることを目的とする食品です。

当院においても様々な栄養補助食品や濃厚流動食を使用しております。最も使用されている食品は、濃厚流動食といわれる食品です。濃厚流動食とは、1mlあたり1kcal以上あ

る食品をさし、各栄養素が食事をしたのと同じぐらいバランス良く配合された食品です。

現在では、胃瘻や腸瘻用に、とろみのついた食品（逆流を防ぐため）、糖尿病や腎臓病などの疾病にあわせた食品も数多くでています。栄養補助食品も同様に、疾病別や栄養素別（タンパク質・ビタミン等）に特化された食品が多く、とても役立ちます。

人間は食事を摂取すると、吸収は腸で行われますが、腸を使用しないで絶食期間が続けば続くほど免疫力が下がってしまいます。経口、経鼻、胃瘻、腸瘻と摂取の方法はいろいろありますが、食事を摂取する事は生きるという事においては大変重要な事です。食事摂取量の少ない場合などは、栄養補助食品などを上手に利用して、栄養管理をする必要があります。



第22回 東海北陸神経筋ネットワーク研究会開催

平成22年6月22日、第22回東海北陸神経筋ネットワーク会議研究会が、当院中央病棟3階のプレイルームで行われました。この研究会は、国立病院機構東海北陸ブロックの病院で、主に神経難病を看ているコメディカルが、研究成果を持ちよる場です。静岡富士病院、静岡神経・てんかん医療センター、天竜病院、東名古屋病院、三重病院、医王病院、七尾病院、石川病院や当院、それに近畿ブロックのあわら病院から、併せて71人が参加しました。13題の研究成果が発表され、活発な討議が行われました。また、滋賀県立成人病センター リハビリテーション科 中馬孝容先生が「パーキンソン病における転倒」を特別講演され、認識を新たにしました。終了後、病棟などの施設見学をし、交流を深めて和気あいあいのうちに散会しました。

研究発表を行って

言語聴覚士 佐藤 伸

今回、神経筋ネットワーク研究会で発表する機会を頂き、「骨盤前傾姿勢による脊髄小脳変性症患者の爆発言語の改善」という演題で発表を行いました。脊髄小脳変性症患者の爆発言語は、話し相手の聞き取りやすさに大きな影響を与えます。爆発言語とは、声の大きさや強弱のコントロールが困難な状況で起こる発話で、テレビなどでたまに見かける「酔っばらった時のような話し方」をイメージしていただくと判りやすいと思います。言語療法のリハビリで、骨盤を前傾姿勢に保った状態で話す事で聞き取りやすさに変化が見られた為、音声解析ソフトを使用し検証したところ、客観的に変化が認められたので、その検証結果について発表を行いました。私の他に東海北陸ブロックで12演題の発表があり、日頃知ることが少ない情報ばかりでした。どの発表もすばらしく参考になりよい刺激になった一日でした。今後も得られた結果や考えを積極的に報告、発表していきたいです。



看護だより

一日看護体験(高校生)を受け入れて 総看護師長 奥田 艶子

8月2日(木)に一日看護体験を実施致しました。夏休みを活用して、「看護師になりたい」という意志を持った高校生10名の参加があり、白衣を着て「プチナース体験」をされました。白衣を着た若者の新鮮な目の輝きをみて、私も高校生の時、進路を迷い、一日看護体験を経験したことを思い出しながら、当院の看護の概況を説明しました。

参加者は病棟で初めは緊張していましたが、看護ケアを指導者と体験することで、表情も和らぎ、意見交換会の時は「やっぱり看護師になりたい」と自分の意志を確信できたようです。看護師の仕事をと決める思いは様々と思いますが、私も初心を忘れず、仕事をしたいと思います。9月には中学生の職業体験も予定しています。一人でも多くの方に当院を知っていただき、体験を通じて医療の職業についてほしいと願っています。



医局短信

第2回 鈴鹿夏季筋セミナー開催 神経内科部長 久留 聡



さる8月29日(水)に第2回鈴鹿夏季筋セミナーを行いました。昨年からはじめた若手神経内科医向けのセミナーです。名古屋市内の基幹病院から4名の参加がありました。

内容は筋疾患総論、呼吸管理、心筋障害、筋病理、分子遺伝学、筋疾患各論の講義および筋ジストロフィー病棟、リハビリテーションの見学です。講義のあとには鋭い質問があるなど、講師・受講

者ともに有意義な一日を過ごすことができ好評のうちに幕を閉じました。

このセミナーを受けたことで、筋疾患の研究・診療の面白さを少しでもわかっていただければ幸いです。来年以降も継続して行う予定にしていますので、興味のある方は是非ご参加下さい。

鈴鹿病院の夏祭り !!

児童指導員 竹村 真紀

保育士 村山 万里子

東1階・西1階（筋ジストロフィー患者）病棟夏祭りを7月25日（水）14:00～行いました。ゲストの方を招き、3階プレイルーム・東1階病棟デイコーナー・西1階病棟デイコーナーの3会場で楽しいひとときを過ごしました。

3階プレイルームでは、いせしまユニットよしこ&しょうご様によるギターや馬頭琴の演奏や歌声の音色をこころに響かせ、夏を感じさせ懐かしい雰囲気を感じることができました。

東1階病棟では、中村好江わくわくHOT 3様によるジャズの演奏で楽しい気分になりました。

西1階病棟では、ホスピタルクラウンてるちゃん・シャンティ様によるマジックやパフォーマンスにあっとした驚きや笑顔でいっぱいになりました。

たくさんのボランティアの方にも来ていただき、楽しい夏祭りになりました。



7月4日（水）には、西2階（重症心身障害児・者）病棟の夏祭りが行われました。昨年のクリスマス会は各病室で行いましたが、今回は患者様全員が3階プレイルームに上がり、参加することができました。療育指導室職員によるリコーダー演奏ではおさるが登場し、会場が笑いと歓声で盛り上がり、ボランティアグループのきららさんにハーモニカ演奏を披露して頂き、楽しい夏祭りになりました。7月6日（金）には、東2階（重症心身障害児・者）病棟の夏祭りが行われ、ロイヤル鈴鹿さんによる素晴らしいダンスを披露して頂き、楽しい時間を過ごすことができました。



♪ゲストの方たちと一緒に♪

患者さんが地域で初めての個展を開催して

地域医療連携室 林 みどり

西1階病棟で長年療養生活を送っている岩澤義巳さんが、平成24年3月28日から4月27日まで当院の近くにある百五銀行加佐登支店で、絵画の個展を開催しました。

岩澤さんは、入院当初から何かやりたいと考えており、以前から興味があった絵画に取り組むことに決めたそうです。それから17年間ずっと描き続けた作品が約20点出来上がりました。岩澤さんは徐々に筋力が低下する病気であり、自分でできることが限られてきて一つの作品を完成するのに1年を要するようになりました。現在はボランティアの方々の協力を得て、週に1回1時間描き続けています。

今回、個展を開催したことで、たくさんの友人や地域の方々から「すごいね、良く頑張ったね、これからも頑張って続けてね。」等の励ましの言葉をもらい、これからの人生の大きな励みになったそうです。病院内の廊下にも岩澤さんの作品がいくつか飾られており、患者さんやスタッフの癒しになっています。

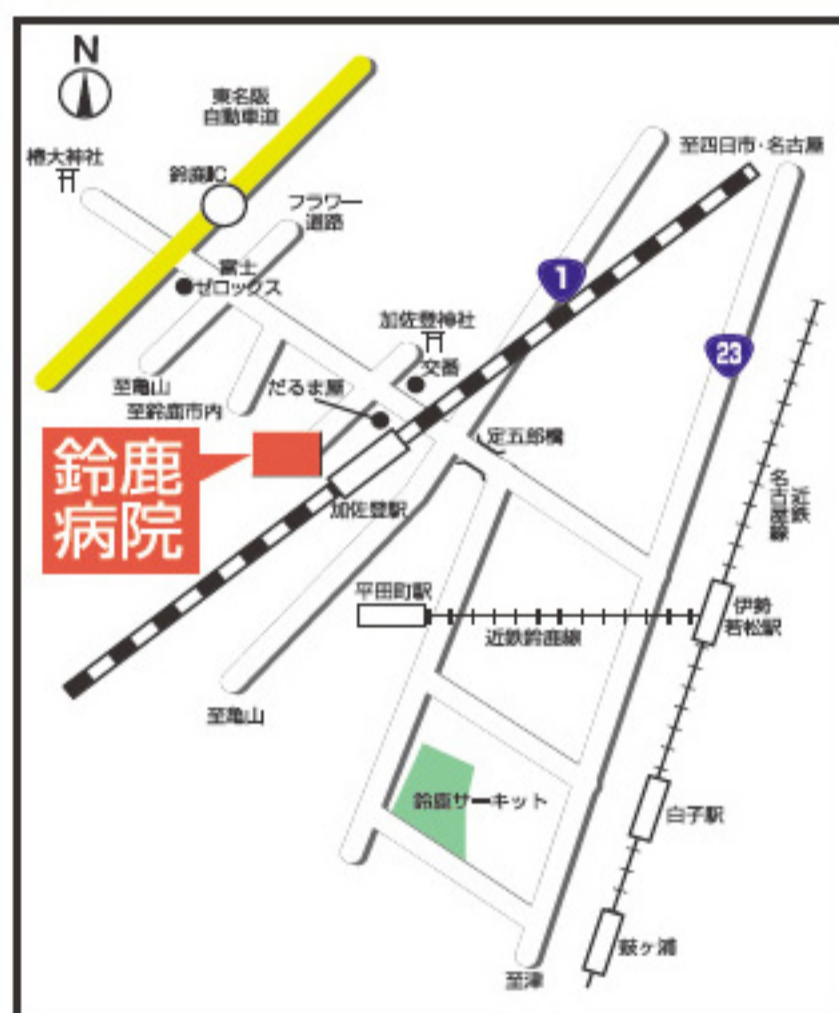
また、秋には同じく百五銀行加佐登支店で個展が開催されます。皆様方ぜひ一度ご覧になって下さい。岩澤さんの努力の結果と言える素晴らしい作品に出合えると思います。



外来診察担当表 (2012年9月1日現在)

	月	火	水	木	金
神 経 内 科	小 長 谷	酒 井	小 長 谷 松 本	小 長 谷	久 留
内 科 (循 環 器 科)	安間(第1・3・5) 棚橋(第2・4)	木 村	安 間 (循 環 器)	安 間 (循 環 器)	棚 橋 (循 環 器)
小 児 科	予 約	予 約	予 約	予 約	予 約
整 形 外 科		田 中(信) 午後(装具)			田 中(信)
リハビリテーション科					
歯 科	土 性	永 田	松 村		
皮 膚 科					

- ◆ 外来受付は8:30～11:00、診療開始は9:00～です。
- ◆ 歯科は身体障害者の方に限ります。
- ◆ 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越し下さい)。
- ◆ 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約下さい。
- ◆ 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。



交通案内

- ◆ JR「加佐登」駅より徒歩8分
- ◆ 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- ◆ 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- ◆ 三交バス(荒神山口行き/樺大神社行き)
「加佐登神社前」下車すぐ
- ◆ 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
樺・平田線「26加佐登神社」下車すぐ

◆ 発行

平成24年9月
独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院
 〒513-8501
 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号
 Tel. 059-378-1321(代)
 Fax. 059-378-7083
<http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

編集後記

暑かった夏もそろそろ終わりを告げようとしています。
 待ちに待った外来管理診療棟の完成も近づき、
 引っ越し等の準備も慌ただしさを増してきました。
 この「鈴鹿の風」で今後も鈴鹿病院からの情報発信源として様々な情報を提供していきたいと思っています。(沖高 伸夫)

※写真は本人の許可の下、掲載しております。